令和6年度第3回瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議 会議録

1. 日時 令和6年10月29日（火） 14:00～15:00
2. 場所 瑞浪市役所 2階大会議室
3. 出席者 景山 英明
松井 廉
浅野 崇
堀尾 憲慈
佐伯 さほり（座長）
中村 佐記子
藤田 好恵
梅村 やよい
[名簿順、敬称略]
4. 欠席者 木村 秀明
[敬称略]
5. 瑞浪市
（事務局） 正木 英二（みずなみ未来部長）
工藤 雄一（企画政策課長）
津田 良介（企画政策課企画政策係長）
三浦 啓輔（企画政策課企画政策係員）
6. 日程
 1. 座長あいさつ
 2. 議事
 - （1）第2回会議録（案）について
 - （2）2次評価の取りまとめ（意見書案）について
 3. その他

1. 座長あいさつ

2. 議事

(1) 第2回会議録(案)について【資料1】

7ページ、3行目「皆が高齢者に対し」を「皆が高齢者等に対し」に修正

(2) 2次評価の取りまとめ(意見書案)について【資料2】

【各委員が自身の評価について説明】

(委員)

瑞浪商工会議所として、瑞浪市の経済を発展させるため、市内の若手経営者を含め、産業と観光を抱き合わせられないか、また、リニア中央新幹線と観光を紐づけることはできないか検討している。

瑞浪市内に大きな観光地はなく、化石くらいではないかと思う。それをブラッシュアップする方法もあるが、他の方法として考えられるのが、「ゴルフの町みずなみ」を推進することである。瑞浪市にゴルフをプレーしに来訪される方が多くいるので、その方々に市内でお金を落としてもらえよう事業はないか模索している。例えば、ゴルフ場や鬼岩温泉などに商品券を配り、市内での購買促進に繋げるなどがあるが、なかなか良い案が浮かばないのが現実である。

スナッグゴルフという競技が小中学生向けにある。瑞浪市がスナッグゴルフを推進していることを耳にした滋賀県甲賀市の方が視察に来られた。その関係で交流が生まれ、瑞浪市も甲賀市へ伺うことになった。このように、「ゴルフの町みずなみ」を利用し、産業と観光を関連づけられないか検討している。

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略の中にも観光誘致の推進、観光消費額の増額を目指す事業があるのでそれを拡大していく必要がある。

また、自動運転バスで新病院と瑞浪駅の間をつなぐ計画があると伺ったが、すぐ実現できないと考える。リニア中央新幹線の駅が、中津川市にできるのであれば、それを活用できる事業がないか検討しているところである。少しでも瑞浪市の発展のためになるような事業を瑞浪商工会議所が担っていきたい。

(委員)

今回、教育の立場から参加していた。瑞浪市とは、特に域学連携で関わっている。今年度もミライ創るまい課をはじめとして瑞浪市と協働している。

瑞浪市の人口減少をどう食い止めるかが最大の課題である。また、それぞれの事業のKPI指標が最終目標ではなく、市民がいきいきと暮らし、賑わいのあるまちになるかが一番の目標である。

一つひとつの事業が、人口減少を食い止める重要な施策であることを意識しながら事業を進められたい。

(委員)

意見書案にある「観光コンテンツ造成事業」の私の評価は、別事業の評価の記載が転記されているため、修正をお願いしたい。

私の評価と他の委員の方の評価が異なっているところがあるが、それは、KPI指標がこの事業を評価するに適したものか、非現実的な目標になっていないかという観点でも評価したからであるのでご承知願いたい。

業務効率化事業について、デジタル化に乗り遅れると取り残されてしまうことが懸念される。様々な試みをされているので、それが本当に使われていて、どのように効率化され、空いた時間をどのように活用するのかよく検討、検証されたい。

一番の大きな課題は「瑞浪駅周辺再開発事業」である。これについては、各市町村が抱える重要課題であるため、担当部署だけでなく、市全体で考えていくべきである。民間事業者任せでは、まちの特徴が無くなるのが危惧される。

(委員)

瑞浪市は魅力あるまちである。確かに何が観光資源かと考えるとゴルフや化石が思い浮かぶ。最近では、クラフトビールが話題であり、多治見市近辺の人が魅力に感じていると思う。

「地場産品ブラッシュアップ事業」について、(株) ビームスがゴルフ事業を展開するなど、ブランド的に有名であるため、自信を持って進めてもらえると良い。

より多くの市内の事業者に参加いただき、(株) ビームス以外の民間事業者でも良いので、地場産品の付加価値が上がると良い。瑞浪ポーノパークもある程度成功していると考えるので、今後も瑞浪市の地場産品に期待している。

(委員)

今回、防災の視点で各事業を評価した。

瑞浪市が転入の事業を進めているが、この事業によって転入された方が地震等で命を落とすことが無いよう尽くされたい。また、『未来の子どもたちに渡せるまち』をコンセプトとして進める「瑞浪駅周辺再開発事業」には、防災対策が整い安心して快適な施設となるよう期待する。

また、「自治会加入促進事業」について、災害時は地域住民同士で声を掛け合い協力することが必要であるため、顔が見える関係を築けるよう瑞浪市にはサポートいただきたい。

(委員)

私は、移住してきた身である。瑞浪市には課題はあるが、その課題に対し、前向きに取り組んでいることがうかがえるので、これから発展できる市だと思う。

私が引っ越してきて最初に医療について不安であった。瑞浪市での生活に慣れたとはいえ、まだ、家族や自分が体調不良となったときに安心して医療を受けられるかが非常に不安である。

引き続き、医療にかかわる事業を推進いただければと思う。

(委員)

瑞浪市の高齢化率が32.18%となり、団塊の世代が75歳を迎え、一人暮らしの高齢者が増加した。今年の夏は特に暑く、熱中症状を訴える方が多く、孤独死に至るケースもあった。

そういった方にとって、自治会という存在が非常に大切であるが、加入率が低いことが課題である。災害等が無い場合、より多くの方が自治会に入るメリットがないと考えてしまう。

損得勘定ではなく、自治会のあり方や自治会が存在しなければならない理由を発信する必要がある。

(委員)

私は、ローカルメディアに携わっており、現在は地域外に向けて発信することに力を入れているが、一番大切なことは、地元の方々が地元の良さを知っていなければ、移住定住が進まず、若者の地元離れにつながってしまうと考える。

様々な事業を進めているが、高校までは学校で瑞浪市の取組を知ることができ、また、地元と関わる機会があるが、大学や社会人になると市広報誌を読む等しなければ、市がどのような活動しているかを把握することができない。そういった方々に対して、いかにPRし、地元の良さに気付いていただけるかが重要である。そのあたりは、メディアでの発信も難しいことを感じている。

職員も各事業の目標に向かって進めていると思うが、その事業内容に適した指標となっているか、疑問に思う事業が多くあるように見受けられた。職員が高いモチベーションを持って事業を進めるために

も見直す必要がある。

(事務局)

ご指摘いただいた点については、修正させていただき、修正したものを改めて確認いただきたい。

先日、評価シートにご記入していただいた内容や、本日いただいた意見をもとに、各事業についてコメントをする。

「子育て世代等移住促進奨励金交付事業」

委員の皆さまから具体的な提案をいただいている。この前進事業では、移住された方に対して3年に分けて交付する方法をとっていたが、より使いやすいように現金一括で交付するように切替えた。

皆さまの意見を踏まえてより良い事業になる余地があると考えている。

「清流の国ぎふ移住支援金交付事業」

この事業は県の施策に併せて進めている。県が決めた事業だからというスタンスではなく、皆さまからいただいた意見を参考に、必要なことは県に伝え、利用者にとって意味のある制度設計を目指す。

「お試し移住体験事業」

この事業を通さないと知り合うことができない方と繋がることができた。単年で満足せず、継続して関わられる仕組みがあると良いと考える。

「林業就業移住支援事業」

内容がかなり限定されたものである。こちらの事業も県の施策に併せているものである。岐阜県全体で森づくりにかなり重きを置いているため、この施策がある。しかしながら、瑞浪市で優先して推し進める施策であるかは検討する必要がある。

「地場産品ブラッシュアップ事業」

皆さまの意見を伺うと継続、さらなる発展を期待されているかと思慮する。シティプロモーションのゴールは、なかなかわかりづらい部分があるが、引き続き、効果検証しながら事業者の活性化、PRの手法について、検討を進めたい。

「域学連携推進事業」

この事業についても継続という前向きな意見を伺うことができた。学生を巻き込んだ地域の活性化、シビックプライドの醸成に関しては、大人がどうリードするかがカギとなるので、さらに発展できるよう推進する。

「業務効率化事業」

単に効率化されたということに留まらず、その先を見ることが重要であると意見を伺った。デジタル化に疎い職員もいるため、そういった職員へのフォローが必要である。効率化によって、いかに住民に還元できるかがポイントとなる。

「市制70周年記念事業」

10月13日に「みずなみ世界一プロジェクト」と題しギネス世界記録™に挑戦した。また昨年度は、野外映画祭を実施した。一過性のイベントではなく、費用対効果や今後を見据えた事業として、「みずなみ世界一プロジェクト」では市の特産品であるみずなみポーノポークを活用した。市制70周年記念事業ということもあり、機運を高める上で、イベント当日の盛り上がりはもちろん必要であるが、瑞浪ポーノポークを使用することで、今後も継続して特産品をPRするということを視野に入れて実施した。会場を、瑞浪ポーノポークを販売するきなあつ瑞浪で実施することで、11月17日に同会場で開催する農業祭でも引き続きPRできるイベントとなった。

「観光コンテンツ造成事業」

この事業は開始して3年目である。関係人口の増加を目的に、いかに瑞浪市独自のものを造成し、それをどう発信するかがポイントであると意見を伺ったので担当課と共有する。

「ゴルフの町みずなみPR事業」

ゴルフ場が13か所ある地の利を活かし、有用なツールとしてPRしたいと考える。スナッグゴルフのように幼いころからゴルフができる環境は瑞浪市では当たり前かもしれないが、特別な環境であると思うので最大限に活用する。

「東濃圏広域観光PR事業」

自治体単体ではなく連携して観光をPRすることの相乗効果を見据えて事業展開する必要がある。

「瑞浪駅周辺再開発事業」

瑞浪市の一大事業である。今回、独自性を出すと良いという意見を多数伺った。この事業から市全体に広げられるよう、よく住民の方と対話し、事業を進められればと思う。

「道の駅整備事業」

こちらでも独自性を出すようにという意見を伺った。きなあつ瑞浪との共存や地域の特性、ニーズにあった事業展開ができるよう分析し準備を進める必要がある。

「水道老朽施設更新事業」

さらに事業の精度があがるようにとの提案をいただいた。半永久的に老朽化したところを更新していかなければならない事業である。今回、AIを活用したように、今後もより効率的に更新を進められるよう考えていきたい。

「東濃地域医師確保奨学基金負担事業」

この事業についても、前向きな意見を多くいただいた。医師の確保は地域医療提供体制の存続につながる取組であると考えている。今後も地元医師会との関係を密にし、事業を進める必要がある。

「自治会加入促進事業」

意見で伺ったように、加入促進のためには何らかの大きな改革が必要であると考えている。自治会のイメー

ジヤそもそも自治会とはどういうものかから考える必要がある。

それぞれの視点で評価、ご意見いただき誠に感謝する。

提出いただく意見書については、全庁的に周知し、今後の事業の推進につなげる。

【質疑応答】

(質疑なし)

3. その他

意見書の提出日 令和6年11月18日(月)10時～ 佐伯座長対応
報酬について 年内に支払い予定

以上